

## 初めてのハワイに「ただいま」

山里 将之

みなさん、こんにちは！  
貝塚聖書教会の山里将之です。

8月末に夏休みを頂き、初のハワイへ。実は、私の沖縄の実母が78歳、妻の義母も77歳を迎え、コロナのため延期になっていた岳壽（喜寿）を、思い切って母の母校があるハワイでお祝いしようというのが今回のハワイ訪問を決意した流れです。



コロナのためもあって、なかなか沖縄に帰る事もかなわず、実に数年ぶりでの家族再会。まず、私たち大阪組が8/20（日）から一足先にホノルル入り、ついでこの記事を書き綴っております8/24（木）に沖縄組が合流。ふた家族、9名の家族旅行となりました。

母がUH（University of Hawaii）で学んでいた当時は沖縄はアメリカ。父は日本に「留学」し、母はハワイに「進学」しました。そのせいもあってか、私にとってはハワイは初、のはずなんですが、どうも懐かしい気がしてならない、不思議な感覚です。初めての地なのに、「ただいま」という思いにも。沖縄と良く似ているからかも知れませんね。

沖縄組が合流する前日、つまり昨日8/23（水）、マキキ聖城キリスト教会を訪問しました。ここは、阪南バイブルチャペルを生み出した貝塚聖書教会を、さらに生み出した岸和田聖書教会を、さらに生み出した、女性宣教師たちの母教会でもあります。教会という視点でも、「里帰り」。霊的な「ご先祖様」の教会には、突然やって来た訪問者を温かく迎えてくれるホスピタリティーが息づいていました。



故郷の「ほっとする一時」は、誰にとっても心なごむ、癒しの時ですよ。そして、クリスチャンには、地上の故郷だけでなく、神様のみもと、天の御国という、本当の「故郷」があります。霊的な家族、真の家族とともに、真の父なる神様のもとへと導かれる故郷がどんなところか、楽しみにしながら、クリスチャンは地上の旅路を歩んでいます。

・・・彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。・・・

・・・聖書：ヘブル人への手紙 11章 16節より。  
(聖書 新改訳 2017 ©2017 新日本聖書刊行会)